

極東産アンガラ系カタアリ属の検討

(英彦山昆虫雑記-XLIII)

安 松 京 三

(九州帝國大學附屬彦山生物學研究所)

ON THE ANTS OF THE GENUS *DOLICHODERUS* OF
ANGARAN ELEMENT FROM THE FAR EAST
(HYMENOPTERA, FORMICIDAE).

By KEIZÔ YASUMATSU.

WILLIAM L. BROWN

別 刷
第 14 卷 昆 蟲 第 5・6 號

昭 和 16 年 1 月

日 本 昆 蟲 學 會

Reprinted from KONTYŪ
Vol. XIV, Nos. 5・6 (January, 1941)
THE ENTOMOLOGICAL SOCIETY OF NIPPON

極東産アンガラ系カタアリ属の検討

(英彦山昆虫雑記-XLIII)

安 松 京 三

(九州帝國大學附屬彦山生物學研究所)

ON THE ANTS OF THE GENUS *DOLICHODERUS* OF
ANGARAN ELEMENT FROM THE FAR EAST
(HYMENOPTERA, FORMICIDAE).

By KEIZÔ YASUMATSU.

歐洲に廣く分布する *Dolichoderus quadripunctatus* LINNÉ, アムール・ウツス
リー地方に産する *Dolichoderus quadripunctatus sibiricus* EMERY 及び北米に見ら
れる *Dolichoderus plagiatus* MAYR は互に極めて近縁の種で、これら3者はその
祖先を1にするものと思はれ、所謂アンガラ動物相を構成する代表的な蟻と見
做す事が出来る。

我が國に於ける *Dolichoderus* 属の研究は頗る新らしく、吉岡春之助氏が群
馬縣下にて採集されたカタアリ數頭を故 W. M. WHEELER 教授に送られ、それ
らを WHEELER 教授が1933年に *Dolichoderus quadripunctatus sibiricus* EMERY
及び *Dolichoderus quadripunctatus yoshiokae* WHEELER として發表したのに始ま
り、續いて1939年關西昆虫學會々報上に河野廣道博士及び杉原勇三氏が北海道
より *Dolichoderus abietis* KONO et SUGIHARA なる新種を發表され、吉岡春之助
氏が群馬縣より *Dolichoderus quadripunctatus japonicus* YOSHIOKA なる新亞種を
公表されたのに終つて居る。

私は1939年九州の英彦山に於て *Dolichoderus* カタアリ属の1種を發見し
たので、該標本研究の必要上から上記諸種の検討を試みるの機會に恵まれた。

筆を進めるに當つて、材料に就いて御援助を賜つた河野廣道・吉岡春之助・
澁谷壽夫・小林新二郎・山田満寛・CARLO MENOZZI の6氏に對し深い感謝の意を
表し、本文御校閲の勞を執られた江崎悌三先生にも亦厚く御禮を申上げる。

1. *Dolichoderus quadripunctatus* LINNÉ (s. str.) とその

亞種 *sibiricus* EMERY との差異

さて極東のカタアリ屬を調べる爲には、先づこれら兩者を區別するに足る特徴を十分に知る必要がある。私は C. MENOZZI 博士に依頼して *sibiricus* EMERY の原記載とロシアの蟻學の權威 M. D. RUZSKY 博士の大著 “Formicariae Imperii Rossici” (1905) 中の *sibiricus* EMERY に関する記事とを寫して貰つた。それらと私の考察とによれば兩者區別の主要點は結局次に掲げる C. EMERY の原記載中の一文に歸すると思はれる。

“Mentre nella forma europea i punti grossi del capo si fanno più radi sul vertice, spariscono quasi sulla fronte e mancano sul clipeo, nella nuova forma, la punteggiatura grossa é più leggieri si osservano pure sul clipeo.”

2. 本邦に於けるカタアリ屬の最初の記録

1933 年 W. M. WHEELER 教授は本邦よりカタアリ屬の 2 亞種を發表するに當り “Heretofore no species of *Dolichoderus* has been taken in Japan.” と述べて居る。然し私の考證する所によれば、既に 1915 年に發表された故寺西暢氏の全く別な種類の蟻の論文中の數行にカタアリの記事と思はれるものを發見するのである。即ち “再び四星大蟻に就きて” (昆蟲世界, Vol. 19, No. 220, p. 502—503, 1915) なる論著中の次の數行が正しくカタアリに關するものと推測される。

“次に最近四星大蟻に類似し體形は同小形職蟻よりも尙小形、腹部第一、第二に斑紋を有し、厚き腹柄節を有するものを十數頭得たり然れども之等は皆四星大蟻と混在し置たるものなる故斷定に苦しむ點あり爲めに今尙採集に勉めつゝありされば之が所屬に就きては後日に待つ”。

寺西暢氏が去られた今となつては、果して私の以上の考が正しいか否かを確め得ないのは遺憾である。

3. 研究に使用した材料

私が本研究に使用した材料は下記の各地から集められたもので、頭數は總

計 105 頭である。

歐洲（イタリー）：6 職蟻，Caro MENOZZI 氏が *Dolichoderus quadripunctatus* LINNÉ と同定して私に惠送されたもの。

南滿洲：3 職蟻，1939 年 8 月 25 日河野廣道博士が奉天で採集され，私に御貸し下さつたもの。

朝鮮：3 職蟻，1939 年夏京城に於て景福中學校生徒が採集したもので，小林新二郎・山田満寛兩氏の御好意により私に惠送されたもの。

北海道：2 職蟻，1938 年 6 月 5 日定山溪に於て河野廣道博士採集，1939 年杉原勇三氏との共著で *Dolichoderus abietis* トドカタアリなる新種を發表されたものの cotypes であつて，特に河野博士の御好意で私に貸されたもの。

本州：1 職蟻，1932 年 8 月 8 日桐生市に於て吉岡春之助氏が採集されたもので，同氏著群馬縣産蟻類目録（後出）中の No. 15 の *Dolichoderus quadripunctatus* LINNAEUS n. var. に相當し，且 W. M. WHEELER 教授の *Dolichoderus quadripunctatus yoshiokae* に該當するもの，吉岡氏の御好意によつて私に惠送された。

本州：2 職蟻，1930 年 7 月 13 日群馬縣水上村上ノ原にて吉岡氏採集，2 職蟻，同年同月 17 日群馬縣尾瀬附近のネバ澤で吉岡氏採集。これは吉岡氏の群馬縣産蟻類目録中の No. 14 の *Dolichoderus quadripunctatus* LINNAEUS n. subsp. 及び同氏發表の *Dolichoderus quadripunctatus japonicus* の cotypes に相當するもので WHEELER 教授が 1933 年に *Dolichoderus quadripunctatus sibiricus* EMERY としたのは又これである。何れも吉岡氏御寄贈。

本州：59 職蟻，1932 年 6 月 19 日に澁谷壽夫氏が攝津國清水谷瀧附近で同一の巢中より採集私の研究の爲に特に全部を惠送されたもの。

本州：24 職蟻，1933 年 11 月 21 日に澁谷壽夫氏が攝津國瀬川で同一の巢中より採集惠送されたもの。

九州：3 職蟻，1939 年 7 月 12 日筑前國英彦山の薬師峠附近で私が採集したもの。

4. 各種及び亞種の検討

Dolichoderus (Hypoclinea) quadripunctatus sibiricus EMERY

1933 WHEELER, Psyche, XL, p. 67.

D. quadripunctatus sibiricus, K. Kyushu
contrary to Wheeler

前記の如く吉岡氏がネバ澤で採集されて同定の爲に送られた標本を研究して、WHEELER 教授はかく同定した。同教授は日本産の標本をトルキスタンのタシュケント産の *sibiricus* と比較研究して、両者が “closely” に一致する旨を述べ、大腮表面の光澤等に就いて EMERY の原記載と幾分の不一致を認めて居る。然し乍ら EMERY が原記載に用ひた標本はアムール産の唯 1 匹の職蟻であつて、私の取扱つた比較的多数の標本を見ると多少の變異が認められ、大腮に光澤を缺く簡體もあり、WHEELER 教授の上記の僅かの疑ひは全く杞憂に屬せしめてよいと思はれるのである。南滿洲・朝鮮・本州及び九州の標本で私の手許にあるものは全部亞種 *sibiricus* EMERY の範疇に入り得るものと思考する。

***Dolichoderus (Hypoclinea) quadripunctatus yoshiokae* WHEELER**

1933 WHEELER, Psyche, XL, p. 67.

本亞種は吉岡氏が桐生市で採集された材料に基いて WHEELER 教授が發表したものである。然し乍ら WHEELER 教授が掲げた本亞種の特徴は全く亞種 *sibiricus* EMERY の簡體變異の範圍内に入るものであることは澁谷氏が同一巢から採集された多数の標本を研究することによつて明確となつた。即ちその點刻及び色彩に變異が認められ特に後者に於て著しいものがある。例示すれば胸部の色には鮮明な赤色から黒褐色までの連續した變化が見られる如くである。即ち *yoshiokae* WHEELER なる亞種名は亞種名としても亦型名としても残る價値のないものと思はれる。—— *sibiricus* EMERY

***Dolichoderus (Hypoclinea) abietis* Kôno et SUGIHARA**

1939 Kôno et SUGIHARA, Trans. Kansai Ent. Soc., No. 8, p. 12—14.

河野廣道・杉原勇三兩氏が和名をトドカタアリとして發表された新種で、北海道産である。兩氏は *abietis* を歐洲産の *quadripunctatus* と比較し次の諸點により兩者が明かに區別出來ると述べられたが、既に日本内地から知られて居た *quadripunctatus sibiricus* 及び *quadripunctatus yoshiokae* との比較は示して居られない。今兩氏の區別點を掲げると、

1. 頭・胸部背面の點刻は遙かに強大である。
2. 額溝はあまり顯著でない。

3. 前胸背は頭部よりも幅狭い。
4. 前胸背前方の頸部に續く傾斜はより急である。
5. 前伸腹節は遙に高く斜後方に突出するが、棘狀突起はない。

以上5箇條である（尤も獨文摘要に於ては第4項目を記してなく、全部で4箇條となつて居る）。さてこれらを検討して見ると、第1の項目は本文第1節に私が明示した様に全く亞種 *sibiricus* EMERY の特徴である。第2・4・5の3項目は *abietis* を種としての特徴づけ得るものでなく悉く亞種 *sibiricus* EMERY の簡體變異の範圍に屬することである。第3項目は原種 *quadripunctatus* と共通の事柄に過ぎない。即ちこの事は標本に就いて見ても、更に歐洲の學者の *quadripunctatus* の記載を見ても明かである。かく論じ来れば *abietis* は *sibiricus* の全く典型的なものと結論することが出来る。尙兩氏の示された *quadripunctatus* と *abietis* との體の側面圖に就いて見るに、私に御貸し願つた *abietis* の cotypes ではその中胸背は圖の如く背方に膨出して居らず、又所謂前伸腹節の形も必ずしも圖の如くでなく、逆に近い場合も多數簡體中には認められたのである。

Dolichoderus quadripunctatus japonicus YOSHIOKA

1939 YOSHIOKA, Trans. Kansai Ent. Soc., No. 8, p. 70—71.

これは1933年に WHEELER 教授が *Dolichoderus quadripunctatus sibiricus* EMERY として發表したものと同亞種である。吉岡氏がネバ澤及び上ノ原産のカタアリを上記の如く新亞種 *japonicus* として發表された事に就いては次の事情がある。即ち WHEELER 教授が吉岡氏から同定を求められた材料に對して、これを *sibiricus* 及び *sinensis* WHEELER に近いものであるとして、吉岡氏の御論文の中に掲げられた如き區別點を返答、記載を慫慂された。然るにその後教授自身これを *sibiricus* として發表し、而もそのことを吉岡氏に通知せず、又その論文の別刷を吉岡氏に送ることも怠つたのである。

5. 結 論

私は從來極東から知られて居たアンガラ系のカタアリ属を比較的多數の材料に就いて研究の結果、前節の如き結果を得たので次の如く結論する。

1. 極東産アンガラ系カタアリ属は *Dolichoderus quadripunctatus sibiricus*

EMERY なる 1 亞種を以つて代表される。

2. *Dolichoderus abietis* は種として、又 *D. quadripunctatus yoshiokae* 及び *D. q. japonicus* は亞種としての存在價值を認め得ない。即ち

Dolichoderus quadripunctatus sibiricus EMERY, 1889.

=*D. q. yoshiokae* WHEELER, 1933, syn. nov.

=*D. abietis* KONO et SUGIHARA, 1939, syn. nov.

=*D. q. japonicus* YOSHIOKA, 1939, syn. nov.

の如くに異名の整理が望ましい。

3. 本亞種は必ずしも トドマツ林内にもみ發見可能ではない故、トドカタリなる和名は不適當であるので、寧ろその亞種名を導入してシベリアカタアリと呼んだ方が、臺灣産のカタアリに對しても、分布上本亞種がアンガラ系である事を示して、より良好ではないかと思ふ。

4. シベリアカタアリの新產地として、南滿洲の奉天、朝鮮の京城、本州の攝津地方、九州の英彦山を記録する。

6. 文 獻

1. Bondroit, J. 1918: Les fourmis de France et de Belgique. Ann. Soc. entom. France, LXXXVII, p. 1~174 (特に p. 87.).
2. Emery, C. 1889: Ann. Mus. Stor. Nat. Genova, XXVII, p. 442 (*Dolichoderus quadripunctatus sibiricus* の記載).
3. Emery, C. 1912: Genera Insectorum, Hymenoptera, Formicidae, Dolichoderinae.
4. 河野廣道・杉原勇三 1939: トドマツ・エゾマツ林内の蟻類, 關西昆蟲學會々報, No. 8, p. 8~14 (特に p. 12~14).
5. Kuznetsov-Ugamskij, N. N. 1929 Die Ameisen des Süd-Ussuri-Gebietes. Zool. Anz., LXXXIII, p. 16~34 (特に p. 29).
6. Mayr, G. L. 1855: Formicina austriaca. Beschreibung der bisher in österreichischen Kaiserstaate aufgefundenen Ameisen nebst Hinzufügung jener in Deutschland, in der Schweiz und in Italien vorkommenden Arten. Verh. zool.-bot. Ges. Wein, V, p. 273~478, 1 tab. (特に p. 377~381.).
7. Menozzi, C. 1929: Formicidae in H. Eidmann's "Entomologische Ergebnisse einer Reise nach Ostasien." Verh. zool.-bot. Ges. Wien, LXXIX, p. 327~332 (特に p. 330).
8. Ruzsky, 1905: Formicariae Imperii Rossici, I, Arbeiten des Naturforsch.

- Ges. an d. K. Univers. Kazan, XXXVIII, p. 1~800 (特に p. 472).
9. 寺西 暢 1915: 再び四星大蟻に就いて, 昆虫世界, XIX, No. 220, p. 502~503 (特に p. 503).
 10. **Wheeler, W. M.** 1921: Chinese ants collected by Prof. C. W. Howard. Psyche, XXVIII, p. 110~115 (特に p. 111).
 11. **Wheeler, W. M.** 1933: New ants from China and Japan. Psyche, XL, p. 65~67 (特に p. 67).
 12. 吉岡春之助 1939: 群馬縣産蟻類目録, 關西昆虫學會々報, No. 8, p. 64~69 (特に p. 67).
 13. **Yoshioka, H.** 1939: A New ant of the Genus *Dolichoderus* from Japan. Trans. Kansai Ent. Soc., No. 8, p. 70~71.
-